

【解答例】

I

問一 国家の歴史にまつわる資料を保管するアーカイブは、収蔵品の選別とアクセス規定によって、保存する価値のあるものは何か、誰に何を見せるかを決定すると同時に、そこに所蔵されたものにとときの権力の立場から「真正な本物」という正統性を与えるシステムだから。

問二 蒐集する行為はアーカイブの保管の働きと同様に、歴史や記憶を提示する主体であるはずの資料を、逆に蒐集する人の恣意によって、選別、価値づけ、定義づけられる対象として客体化してしまうという、奇妙な逆説をもたらすということ。

問三 蒐集では、独自で特別なものは外部の客観的基準によって類型化されてしまうが、アートでは、歴史認識とは一見無関係な陳腐なものを蒐集する行為が新たな創造性の契機となり、作家の直感と反省的思考のみによる選別基準は作品の内部で完結するということ。

問四 ナチ時代につながってくる記憶を、アーカイブの権力によって恣意的に蒐集され真正なものとされた資料から想起させるのではなく、芸術家が集めた雑多でありきたりな資料を見せることで、黙殺され「静寂」のなかに押し込められた記憶とともに連想させようとする意味。

II

問一 川面を潮の干満につれ行き来する水死体を、「一個だけ」「一団」「筏のよう」「それらは……残骸と同じように無意味なもの」など、人間というより物体としてとらえた場合は「それら」と表現し、「かれらの体」や「遺族の眼にふれる」「無縁の遺体」など、戦争の被害者である人間として意識した場合は「かれら」と呼び、使い分けている。

問二 空襲で逃げ遅れるのは動きの鈍い老人や女子供に限られると思っていたが、川に自分たちと同年齢ぐらいの学生服を着た死体が流れてきたのを見て驚き、とっさに学校の仲間二人の安否を不安に思ったから。

問三 空襲時の避難経路を詳細に記した地図を作り、避難方法を風向きまで考慮して具体的に考えている鶴飼には自分の頭よさと用意周到さを誇る気持ちがあったが、それを得意ぶるのも大人げないという気持ちがあったから。

問四 十七歳という年齢は、平時では少年という位置づけの歳ではあるが、戦時下で人が次々に死体になっていく現実の中で死を意識せざるをえず、国を守るために兵役に就く覚悟を決めたり、ときには家を存続させるために妻帯を迫られたりするようになり、大人として振舞うことが要請され、自身も大人にならざるをえない年齢であると考えている。

問一 ㊦

(a) 一晩中眠ることができない。

(b) 全体がまだ白銀になっっているわけではなく、

問二 清見潟の磯辺近くの宿で、波がかかるわけでもないのに、旅

寝のさびしさに涙で袖を濡らしている筆者の様子。

問三 興津にある岫が崎の沖の風が今朝は荒いので、荒磯の岩を

伝って波を分けながら、衣の袖を涙に濡らして旅路を行くよ。

問四 香炉峰の雪の詩を作った白居易も、富士の白雪の和歌を詠

んだ旅人も、雪の山に魅せられた心清らかな風流人である点

を評価している。

問五 富士の山頂で風に漂っている白雲を、都良香が書き遺した

ような、山頂で舞う白衣の天女の袖かと思っただけ見るよ。

問一 ㊦

さうか（そうか）にぐわじん（がじん）あるをみる

《別解》

くわのしたにうえたるひとあるをみる

問二 趙宣孟が施してくれた干し肉を残しておいて、自分の老母

に食べさせたいと思っただけから。

問三 靈公が刺客を使って自分の暗殺を企てていることを察知し

たため、一刻も早く酒宴の場を退去して、我が身の安全を図ろ

うとしたから。

問四 《現代語訳》

わざわざ名乗る必要ありません。

《理由》

姓名を名乗るよりも「桑の下の餓人」と言った方が、自分が

何者かを趙宣孟にわかっただけでもらいやすいと思っただけから。

問五 以前、飢えて行き倒れになった自分を助けたい母まで

気遣ってくれた趙宣孟の恩義に報いるため、主君の命に背き

自分が死んでも趙宣孟の命を助けるべきだと判断したから。